

# 周縁か中心か? — 音楽史の中のベルギー

1830年、ベルギー独立。

オランダ、ドイツ、フランスにとっての「周縁」であり「中心」であったベルギーは、創られゆく音楽史のなかで、いかなる役割を果たしたのか。

21世紀、固定化された西洋音楽史を19世紀ベルギーから見つめなおすことで、

私たちの音楽史観を問い直し、新たな音楽史そして文化史の可能性を探る。



ヴァーグナー・ブームはなぜ起きたのか? その実態とは?

## ベルギーと ヴァグネリスム

第1回

[1870年-]

2019年7月20日 13:00—16:30 同志社女子大学今出川キャンパス 純正館S015教室

趣旨説明 椎名亮輔 (同志社女子大学)

基調講演 マーテルランク『ペレアスとメリザンド』のゲルマン性 | 岩本和子 (神戸大学)

ヴァグネリスムとドビュッシスム | 安川智子 (北里大学)

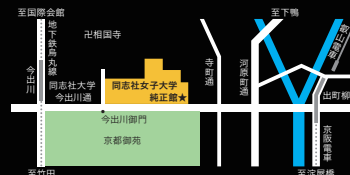
ベルギー北方の音楽家の言説に見るヴァグネリスム | 大迫知佳子 (広島文化学園大学/ULB)

ダンディ派とベルギー | 椎名亮輔

フロアを交えて全体ディスカッション 進行=友利 修 (国立音楽大学)

主催: 日本音楽学会 共催: 日本ベルギー学会、ベルギー研究会 後援: ベルギー大使館

お問い合わせ: 電話 082-239-5171 / FAX 082-239-2863 (広島文化学園大学・大迫)



同志社女子大学今出川キャンパス  
〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入  
地下鉄丸太線今出川駅、京阪・叡電出町柳駅より  
それぞれ徒歩10分

【予告】第2回: ロマン主義とフェティス [1830-70年] — ベルギー人フェティスの影響はどこまで及ぶ? ベルギー・ドイツ・フランスの音楽史言説を比較する。

2019年12月14日 13:00— 国立音楽大学 6号館110スタジオ

登壇者: 友利修 (国立音楽大学)、上山典子 (静岡文化芸術大学)、朝山奈津子 (弘前大学) および第1回の登壇者ほか

演奏: 国立音楽大学学生・卒業生有志による、グレトリー、フェティスのオペラ・コミック抜粋上演あり